



喜多焚

節分

「鬼は外、福は内」節分の鬼やらいに、こ
唱えて豆を撒く。恐らく多くの方がこれまで
にこうした節分を体験された事と思います。

元来は追儺(ついな)と呼ばれる平安時代の
宮中の儀式が元で、その儀式では、立春前夜(つ
まり節分の日の夜)に方相氏(ほうそうし)と呼
ばれる役人が、鬼のような厳つい面を被り、三
又の鉾と盾をもって大内裏を巡って邪気を追
い立て、さらに角々では桃の枝の矢を放って
鬼を宮中から追い払う儀式が執り行われ、追
い払われた邪気は四方の門に置かれた土牛(埴
輪のような粘土を焼いて作られた牛像)に吸い
寄せられ、その土牛を節分の夜に撤去する事
で、災厄が払われるとされました。この儀式が
節分の直接的な原型となります。雰囲気的に
は、現代の地域防犯で行われる歳末夜警とど
ことなく似ているかもしれません。

この追儺の儀式が次第に民間に広まり、応
仁の乱前後から「鬼外福内」と唱えられるよう
になり、また宇多天皇の御代に、鞍馬山から来
た鬼に、三石三升(約八四〇リットル)の炒り豆
をぶつけて目を打ち潰し、災厄を逃れたとい
う故事から、豆を撒くようになったともいわ
れています。豆は「魔滅」にもつながるとして
特に縁起を担いで多く用いられるようになって
いったようです。

非常に長い年月をかけて日本の風土に根ざ
し、邪気払いの神事として成り立った節分は、
私達に春の到来を予感させる大切な予祝行事
でもあります。寒さ厳しき時、心身に菓食う鬼
を払って、元氣な春を迎えましょう。

菜種守の授与

春の先がけたる梅の花が盛りの頃、春の訪
れを告げる菜の花もまた花を咲かせ始めます。
当地梅田、特に茶屋町のあたりは、かつて菜
種油を採取する為の菜の花がたくさん植えら
れた地域であり、春ともなれば、あたり一面に
黄色い菜の花畑が俳句になるほど有名でした。
また、菜の花は天神さまにも由縁が深く、天
神さまの御命日が旧暦の二月二十五日、つま
り現在の三月下旬のちようど菜の花が満開の
時期でした。そこから、菜の花の優しい風情が、
御命日ごとに天神さまの御霊を徐々にお宥ね
(お菜種)し、年経るごとに天神さまが学徳の神
さまへとなっていったという信仰があり、そ
うした謂れから、菜の花は人々の心を和ませ、
丸くするというチカラがあるといわれます。
そうした茶屋町の菜の花や、天神さまの故
実に由来して、茶屋町の御旅社では「菜種守(な
だねまもり)」を二月二十五日から四月初旬頃
までの、期間限定で授与いたしております。
梅田・茶屋町ゆかりの絵柄を織り込み、荒む
心を宥め、気持ち明るくし、イライラを鎮め、
冷めた心を温め、優しさを育む事を祈念した
開運の御守です。

厄年の御祈禱

当神社では厄年の厄除け祈禱を受け付けて
おります。数え年の男性四十二才(昭和四九
年生)、女性三十三才(昭和五八年生)の本
厄の方と、その前後一年の年にあたられる方
は厄年にあたられます。

(ご祈禱はご予約制ですのでお電話下さい)

男		女	
前厄	本厄	前厄	後厄
平成 4年生(男) 2.4歳(小)	平成 3年生(女) 2.3歳(中)	平成(昭和44) 元年生(女) 2.6歳(小)	昭和 元年生(男) 2.0歳(小)
昭和 50年生(男) 4.1歳(中)	昭和 49年生(女) 4.2歳(大)	昭和 48年生(男) 4.3歳(中)	昭和 47年生(女) 4.2歳(小)
昭和 31年生(男) 6.0歳(小)	昭和 30年生(女) 6.1歳(中)	昭和 29年生(男) 6.2歳(小)	昭和 28年生(女) 6.1歳(中)

※紫色は大厄、黄色は中厄、白色は小厄です。

女		男	
前厄	本厄	前厄	後厄
平成 10年生(女) 1.8歳(小)	平成 9年生(男) 1.9歳(中)	平成 8年生(子) 2.0歳(小)	昭和 元年生(男) 2.0歳(小)
昭和 59年生(子) 3.2歳(小)	昭和 58年生(女) 3.3歳(大)	昭和 57年生(男) 3.4歳(中)	昭和 56年生(女) 3.3歳(小)
昭和 55年生(男) 3.5歳(中)	昭和 54年生(女) 3.6歳(中)	昭和 53年生(男) 3.7歳(中)	昭和 52年生(女) 3.6歳(小)
昭和 31年生(男) 6.0歳(小)	昭和 30年生(女) 6.1歳(中)	昭和 29年生(男) 6.2歳(小)	昭和 28年生(女) 6.1歳(中)

なお記載の年齢は数え年です。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

